

乳がん検診（巡回）

動 向

協会の乳がん集団検診は、昭和52年厚木市、53年からは神奈川県、55年より横浜市より受託し検診が行われてきた。いずれも視触診による検診である。昭和62年、乳がん検診が老人保健法に組み入れられ実施主体は全て市町村に移行した。

国は、平成12年に乳房エックス線撮影（マンモグラフィ）併用検診を指針に盛り込み、協会でも15年より検診車によるマンモグラフィ併用検診を開始した。17年には装置2台搭載検診車を増車し、20年3月には、神奈川県より新たにマンモグラフィ検診車の貸与を受けて更に検診態勢が整備された。新検診車はC R装置を追加搭載して稼動している。

また、国の指針では対象年齢を40歳以上隔年としているが、神奈川県内の集団検診では、30歳以上や40以上も全年齢としている市町村も多く、対象者は市町村により異なっている。

協会も平成18年より乳がん撲滅のためのピンクリボン運動を展開しており、これに呼応するかのように入診者も増加傾向にある。特に新検診車は全国の子供達が描いた絵をラッピングしており、ピンクリボン運動等啓発活動にも貢献している。

検診の実務ならびに精度管理は、当協会が事務局を引き受けている「神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会（会長＝福田護・聖マリアンナ医科大学教授）」の指導により遂行されている。同連絡会は「神奈川県生活習慣病対策委員会乳がん分科会（事務局＝県保健福祉部健康増進課）」の指導のもとに運営されている。

マンモグラフィ検診については、連絡会内に「マンモグラフィ運営委員会」を組織し、撮影ならびに読影の精度管理について協議する場を設けている。

結 果

検診受診者は18年度より少しづつ増加し、20年度は1,364人と前年度より大幅な増加で初診者、再診者ともに増加し、特に視触診検診受診者はやや減少しているのに、マンモグラフィ併用検診受診者の増加が著しい。ようやくマンモグラフィが認知されて来たように思われる。

要精検率は全体では殆ど変わらないが、視触診受診者では低下、マンモグラフィ併用検診受診者では12%と19年度と同率である。17～18年度の15%より低下し、適当とされる10%以下に近付きつつある。

地域のマンモグラフィ併用検診ではマンモグラフィが精検不要でも、触診のみで要精検となるので、精検率が上がるのはやむを得ない。

精検受診率が20年度は18～19年度の80%から56%と著しく低下しているが、がん発見率は低下せずやや増加しているので救われるが、精検の必要性の教育（特に乳癌は早期発見での救命率、乳房温存率の高さ）と精検機関の紹介等、木目の細かい指導が望まれる。

検診結果の未把握の著しい増加は、この検診の真価が問われ存続にも関わる問題で早急な改善対策が急務である。

癌発見率は著しく低かった19年度よりは49例と増加したが、18年度の69例には及ばない。再診者よりの発見率が0.18%に対して初診者よりは0.42%と高く、未受診者への啓蒙の必要性が伺われる。視触診受診者からの癌発見はわずか1例、0.02%に対してマンモグラフィ併用検診受診者からは、48例、0.30%と18年度の62例、0.47%には及ばないがかなり増加した。マンモグラフィ読影者の確保、精検施設の整備等、精度管理の向上への努力も少しずつなされて来た結果かと思う。

精検受診率は低い、精検受診者からの癌発見率（陽性的中率）は18年度、3.1%、19年度、2.2%、20年度3.6%と高いのは、やはりマンモグラフィ併用検診の効果で視触診検診の陽性的中率1～2%に対して3～4%と高い。精検受診率の向上と未把握例を少なくすれば、更に良い結果が得られるのではないか。

精度管理の向上のため、マンモグラフィ読影勉強会として症例検討会を年に2～3回行って来たが、出席者はまだ多くないが、興味深い症例も多く熱心な討議が行われ、意義あるものと思われる。

横浜市のマンモグラフィ併用検診は全国的に恥ずかしくないものとなって来たが、県域でも巡回検診のハンデキャップがあるが、精度の向上は検診医の意欲と努力と県域自治体、医師会等の協力があれば更に質の高い検診となり得ると考えられる。

次に年齢階級別の検診結果は受診者の分布はほぼ同じで、最も罹患率の高い50歳前後が低く、60歳以上が高いのは地域性と巡回検診のためか。癌発見率（表では確定率）40～50歳代が0.2%以上と高くなり、本来の日本人の形になって来た。尚自治体によっては、視触診を主に30歳代に行っているが、今後受診者の増加が見込まれるので超音波併用検診の導入は必ず必要になると思われる。当協会では超音波併用検診を30歳代～40歳代に施設検診や企業検診では積極的に導入を図っているが、自治体の要請があれば協力したい。

関係の集計表は100頁に掲載